

対象年度	令和 2年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート									
事務事業名	新たな公共交通システムの検討事業							予算事業名	企画調整事務経費			
予 算 科 目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令				
			02	01	07	0501	政策経費					
総合計画体系	2安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)							事業の区分	主要事業			
	2-3便利で快適に移動できるまちづくり(道路・公共交通)											
	②公共交通ネットワークの強化							担当課係等	企画政策課			
	2新たな公共交通システムの検討								政策推進係			
事業期間	継続 (年度～ 年度)											
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】					
交通弱者の交通環境改善や、結城市への、または市外へのアクセス性の向上、市内交通の利便性の向上による地域活性化を図る。							当市では路線バスがほとんど無く、駅から離れると交通手段はほぼ自家用車に限られる。高齢化と単身世帯化の進行で、交通弱者は今後さらに増加すると思われることから、新たな公共交通システムの構築が求められている。					
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】							【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】					
・巡回バスの運用について、今後の方針や課題についての検討 ・デマンドタクシーなど新たな公共交通システムの検討 ・交通弱者のニーズの把握 ・近隣市との連携							結城市民、結城市への来訪者					
							【事業をとりまく環境の変化】					
							・国の方針として、公共交通とまちづくりを一体的に考えた地域公共交通に取り組むことが求められている。 ・近年は、幹線道路沿いに大型店舗の出店が進んでいることから、自家用車のない高齢者などは不便を強いられている状況にある。 ・昨今は、小売店において配達サービスが広まっており、その動向も踏まえて、交通弱者のニーズを把握し、環境改善を検討していく必要がある。					
【令和 2年度 事業内容】				【令和 3年度 事業内容】				【令和 4年度 事業内容】				
地域公共交通会議運営				地域公共交通会議運営				地域公共交通会議運営				

■事業費

		H30年度	R01年度			
財源内訳	国庫支出金	0	0			
	県支出金	0	0			
	地方債	0	0			
	その他	0	0			
	一般財源	1,977	99			
歳入計(千円)		1,977	99			
歳出内訳	節(番号+名称)	金額(千円)	金額(千円)			
	08 報償費	54	99			
	13 委託料	1,923	0			
歳出計(千円)(A)		1,977	99			
伸び率(%)			-94.99			
備考	総合計画 79 ページ 予算書 ページ					

平成30年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H30年度	R01年度	R02年度
活動 指標	検討会議の開催	回	目標	3.00	3.00	3.00
			実績	2.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	地域公共交通基礎調査報告書作成	完了	目標	1.00	0.00	0.00
			実績	1.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	高齢者等を中心とした交通弱者の増加に伴い、必要性は高まっている。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	検討を進めるにあたっては、公益性を重視するため、市の実施は妥当である。
	手段の妥当性	A 妥当である	市民アンケート調査等を実施し、課題の抽出及びニーズの把握に努めるとともに、地域公共交通会議での議論を踏まえて公共交通の在り方を検討しており、妥当な方法である。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	当事業は直ちに成果を期待できるものではないため、効率性より新たな交通システムの継続的な検討を実施することが重要である。
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	誰でも利用可能であるが、実際には交通弱者の利用が多く受益者は偏るものの、福祉及び公共交通の観点から公益性は高い。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	現状では、巡回バス（長寿福祉課）を継続的に運行しており、今後は更なる利便性の向上に努める。
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	巡回バスの老朽化や運転手の確保等の課題があることから、解決策について検討を加速させる必要がある。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
平成30年9月に市地域公共交通会議を設置し、本市の公共交通の在り方について検討を開始することができた。また、広域交通ネットワークの形成の観点から、周辺市町との連携を強化する必要がある。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
巡回バスの運行については、高齢者等が安心・安全に暮らせるように更なる利便性の向上に努める。			

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了	改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） アンケート結果に基づき、本市の公共交通のあるべき姿を結論付け、実施の可能性を協議していく。
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了	企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 関係各課との調整により進める。